

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成22年6月14日（月）～6月20日（日）〔平成22年第24週〕の感染症発生状況

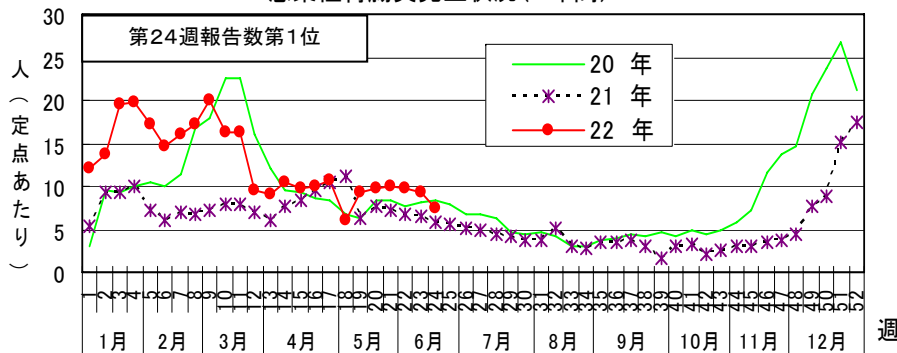
第24週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎が定点あたり7.48人と前週（9.30人）に比較して患者数は減少しております。

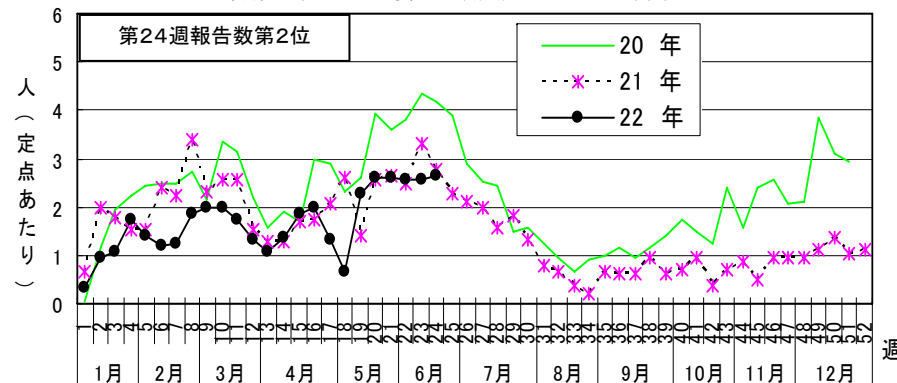
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり2.67人と5週連続でほぼ横ばいの状態で推移しています。

ヘルパンギーナは定点あたり2.64人と前週（1.64人）に比較して患者数は増加しており、さらに手足口病や咽頭結膜熱などの夏期に流行する疾患についても患者数が増加していますので、今後の発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況（3年間）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況（3年間）



過去11年で最も多い患者数！！～手足口病～

乳幼児を中心に例年夏期に流行をしめすウイルス性疾患の手足口病の患者数が、川崎市において例年を上回るペースで増加しています。また全国的にも、第10週以降、過去11年間の同時期に比較して最も多い状況が続いていますので、今後の動向に注意が必要です。

感染経路は！？

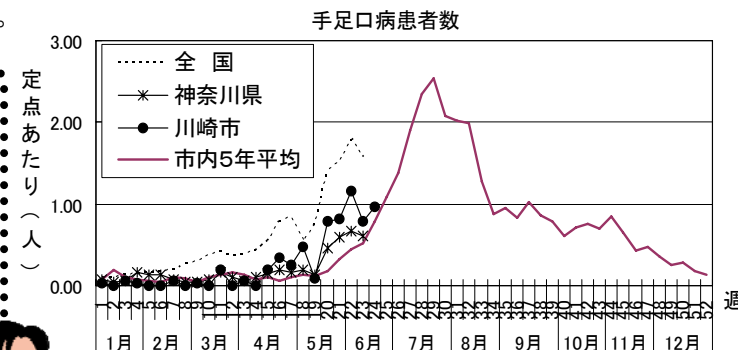
飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られています。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などで、集団感染が起こりやすいです。また、乳幼児では原因となるウイルスに感染した経験のない者の割合が高いため、感染した子どもの多くが発病します。

感染症予防の基本は『手洗い』です！

症状は！？

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出ます。発熱は約3分の1の患者にみられますが、あまり高くないことが多く、高熱が続くことは通常ありません。

ほとんどの発病者は、数日間のうちに治る病気です。しかし、まれですが、髄膜炎などの中枢神経系の合併症が出ることがあります。手足口病にかかった子どもの経過を注意深く観察し、合併症に注意する必要があります。



気をつけたいこと！！

一般的な感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。特に、保育施設などの乳幼児の集団生活では、感染を広げないために、職員と子どもが、しっかりと手洗いをするのが大切です。特におむつを交換する時には、排泄物を適切に処理し、流水と石けんで十分に手洗いをしてください。また、タオルの共用はさげましょう。

手足口病は、治った後もしばらくは便の中にウイルスが排泄されます。感染しても発病しないままウイルスを排泄している人もいると考えられることから、日頃からのしっかりと手洗いが大切です。